

教員同士のネットワークを充実させて ICT化を推進し、ともに支え合う環境を築く

富山県 ^{と な み} 砺波市教育委員会 教育長 **白江 勉**

しらせ・つとむ 富山県の公立小学校教諭を経て、富山県教育委員会西部教育事務所所長、砺波市立学校校長、富山県小学校長会会長等を歴任。2021年4月から現職。

オンライン交流の場づくりを積極的に支援し、連携を強化

本市は、伝統的な農村風景を残しつつ、魅力的な商業エリアがあって、交通の便もよい、バランスの取れた地域です。3世代同居の家庭も多く、地域行事や住民の交流が活発で、地域全体で子どもの成長を支える文化が根づいています。そうした環境が注目され、近年は民間調査の「自治体の住みやすさランキング」では、富山県内や北陸地方で、よく上位に顔を出しています。少子高齢化により市全体の人口は減少しているものの、「砺波市で子どもを育てたい」といった若い世代の移住者は増加しています。

本市において学校教育にかかわる研修施策を企画・運営するのが、「砺波市教育センター」です。同センターは教育委員会とは異なる場所で施策を講じていましたが、2021年度、教育委員会の所在地に同センターを移設し、現場の実態に即した施策をより迅速に打ち出せるようにしました。

市立小・中学校数は計12校で、比較的コンパクトです。それに合わせ

てフットワークを軽くし、教員間のネットワークを充実させる施策を重視しています。特に、オンラインツールを活用した連携に力を入れ、様々なレベルで学校や教員を結びつけてきました。例えば、今年度は、初任者のオンライン交流会を実施しました。小規模校では初任者が1人しかおらず、悩みを分かち合える同じ境遇の仲間が身近にいないといった問題があったからです。そこで、市内の初任者をオンラインでつなぎ、「悩んでいるのは自分だけではない」といった実感を持てるようにし、仲間とともに成長できる環境を整えました。

小・中学校の校長会もオンラインで実施するほか、情報共有のハードルを下げることを意図して、全12校の校長をSNSのグループでつなぎました。日常的なイベントや新型コロナウイルスに関する子どもの反応などの情報を交換しており、直接会えなくても、12人のコミュニケーションが円滑になっていると感じます。

そのようにして学校間・教員間のネットワークを充実させて、困ったり悩んだりした時に、市内全体の先生方に気軽に相談できるような環境

づくりを目指しています。

子どもたちがICT機器を「使い倒せる」環境を

私は、小学校勤務時からICT関連の様々な実証研究にかかわり、ICTの可能性を肌で感じてきました。その経験から、学校教育のICT化を積極的に進めています。

本市では、教育大綱において、「ともに輝き支えあう人づくり」を基本方針に掲げ、「自立と共生の人間形成をめざす」ための施策を進めています。ICTは施策の実現に大きな役割を果たすと考えており、その一環として、今年度、全12校に協働学習、一斉学習、個別学習を統合した学習支援ソフトを導入しました。同時に、ICT支援員を各校に派遣しています。最初は、機器の操作など、教員に技術面を中心とした支援をしていましたが、今では、他校の活用事例の紹介や、授業案の作成、授業中の子どもの支援など、ハードとソフトの両面の支援を行って、各校のICTの活用はスムーズに進んでいます。



市長にも、子どもがICTを活用しながら活発に意見を交わし合い、協働的に学び合う授業を見学してもらいました。市長は、タブレット端末だけでなく、状況に応じて黒板やノートも活用するハイブリッドな授業の様子を確認して、安心していました。

ICT活用の際に大切にしているのは、子どもがICT機器を「使い倒せる」環境を整えることです。ベテラン教員ほど、理解できる範囲外のICT機器の活用には消極的になりがちですが、ICT機器を先入観なく柔軟に使いこなす力は、子どもの方がずっと優れています。登校したらすぐに使うことができ、分からないことがあれば辞書と同様に調べられるなど、子どもがICT機器を存分に活用して学ぶことで、大きな可能性が引き出されると考えています。

学習範囲が指定されていれば1人で学習できる子どもは、ICTを活用することでさらに難しい課題解決も

できるようになります。まずは授業の中で経験することで、自分1人でも使えるように育ててほしいと考えています。そうした力は、これからの時代を生き抜くために必要な問題解決力にもつながっていくでしょう。

教員は、子どもと目で意思疎通することを大切にしてほしい

対面によるコミュニケーションも大切にしています。今年度、夏季休業までに教育センターの職員とともにすべての小・中学校を訪問し、授業を見学したり、校長から悩みを聞いたりしてきました。それを基に着目した各校のよさを、校長会などを通じて全校にフィードバックする試みなどを進めています。

コロナ禍の状況がまだまだ続く中、子どもの心のケアにも力を入れています。「目は口ほどに物を言う」と

いうことわざがありますが、教員は、子どもの「目」から気持ちを感じ取り、さらに自身の「目」を通して子どもに意思を伝えられるべきだという信念を、私は長年の教職経験から持っています。言葉を発さずとも、柔らかいまなざしで受け止めることで、子どもの心が救われることは多いと思います。そうした意味でも、授業中に教員は視線を上げて、左右に動かし、すべての子どもを見ることが大事だと考えます。

先生方がそのような心に余裕を持って子どもに接し、誰もが学校に来たくなるような新しい学びをつくってほしい。そのため、今年度は掃除の回数を減らしたり、休み時間を短縮したりして、小学校教員が毎日放課後、100分間の時間を教材研究等に使えるように確保しました。その時間も有効活用し、子どもも教員も心から「楽しい」と感じる授業や学校を築いてほしいと願っています。

富山県砺波市 プロフィール



◎富山県の西部に位置。中央部を流れる庄川の流域に広がる砺波平野は、屋敷林に囲まれた農家が点在する「さんきよそん散居村」の光景で知られる。チューリップ球根の生産地としても名高い。3世代同居で孫世代を育児した場合に給付金を支給する「三世代子育て応援給付金」を2015年度に開始するなど、子育て施策に力を注ぐ。人口 約4万7,800人 面積 127.03km² 市立学校数 小学校8校、中学校4校 児童生徒数 約3,800人 電話 0763-33-1111 (代表)